

平成 2 9 年度

「運営に関する計画」

大阪市立平林小学校

平成 2 9 年 4 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校では、「自ら学び、共にによりよく生きようとする子どもを育てる」を学校教育目標に掲げ、「やる気のある子」「やりとおす子」「たすけあう子」の育成をめざしている。

【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】

- ① 基本的な生活習慣の確立のため、特にあいさつや言葉遣いに重点を置いた指導を行っている。朝の校門指導や「あいさつ週間」の指導、学級での取り組みにより、あいさつすることへの意識の高まりが見られるようになっている。さらに、児童会活動のあいさつの呼びかけもあり、自ら進んであいさつができるようになってきている。言葉遣いについては、その場に合った話し方ができるようになってきているが、相手を傷つける言葉遣いをする場面も見られる。児童個々の課題もあり、自立・自己実現に対する意識や認識も様々であるが、あいさつの励行や正しい言葉遣いについては、全校朝会や学級指導で注意を促すことを積極的に進めていく。
- ② 安全安心な学校生活を過ごすためには、学校のきまりをもとにルールを守ることが重要であることを丁寧に指導し、規範意識の育成に努めてきた。その結果、多くの児童がルールを守ることができているが、登校時刻やチャイムの合図、遊びのルールなどを守れていない児童も一部いるので、今後も規範意識を高めるための指導を充実させていくとともに学校全体で統一した指導を行っていく。
- ③ たてわり班活動で集会、清掃、行事などの活動を継続して取り組むことにより、異学年交流が深まり相手を思いやる心の育成が図れている。また、道徳の時間を中心に一人一人の違いを認め、互いの人権を尊重することの大切さを学ばせてきた。その結果「いじめや仲間外れ」についてより深く考える児童が増えきている。今後も道徳の授業や人権教育の充実を図り、命の大切さを学び、自尊感情の醸成を図っていきけるよう取り組んでいく。
- ④ 運動場の一部芝生化をはじめとした学習環境の整備に努めるとともに、児童が校内美化に関心を持ち、協力して学校を美しくしようとする態度を育てるために児童会が主となってたてわり清掃を実施している。校内美化・環境整備について、継続して行うことで、自分の学校を大切に思い、ものを大切にしようとする気持ちを育てていきたい。
- ⑤ 土曜授業を中心に、地域清掃活動や防災訓練など、児童だけでなく保護者や地域とも連携した取り組みを行い、学校教育活動を地域・保護者に公開している。また、学校HPを活用し、日々の学校生活についても情報発信に努めている。地域に開かれた学校づくりのために一層の情報発信に努めるとともに、地域や地域の保育所・こども園、中学校や高等学校との連携を進めていく。

【心豊かに力強く生き抜く未来を切り開くための学力・体力の向上】

- ① 算数タイムを設定し、毎朝課題に取り組ませることにより、計算力の向上等、算数科の基礎的、基本的内容の定着を図っている。また、児童の語彙力向上のために辞書引き学習にも取り組み始めた。さらに、日常的に少人数授業や習熟度別授業を実施するなど、学習形態や指導形態の工夫に努め学習内容の充実を図っている。しかし、全国・大阪市と比較し学力差が依然として大きいため、きめ細やかな指導を行うとともに、地域や家庭の協力を得、児童の学習環境を整えていく必要がある。

- ② 体験的活動や言語活動を積極的に取り入れた授業づくりを行うことで興味関心を喚起させ、その中で発表する力や書く力、集団で活動する力を身につけさせるように取り組んできた。また、全校で統一した発表話型を提示・活用する指導を行ったため、しっかりと発表できる児童が増えてきたが、活発な発表ができるまでにはまだ十分とは言えない。
- ③ 学校全体で基礎的・基本的な内容の定着を図るための指導法を工夫した授業研究を行っている。また、他校から講師を招いて教員全体で研修会を開き、指導力の向上に努めている。児童が「できた・わかった」と実感できる授業づくりができるよう、より一層指導力向上のための研修を充実させる。
- ④ ICT機器(タブレット・パソコン・プロジェクター等)を活用し、わかりやすい授業づくりの実践研究を図り、学力の向上に努めている。ハード面での整備が必要であるが、一層有効活用できるよう工夫していく必要がある。
- ⑤ 家庭学習の習慣化を目指し、学校だよりや保護者懇談を通じて周知している。家で、授業の復習をする児童も増えつつあるが、その割合はまだ高いとは言えない。学校HPなどを有効活用し、保護者がより学校教育活動に関心を持ち、家庭学習の大切さを理解してもらえるよう啓発や呼びかけを行っていく。
- ⑥ 「なわとび大会」など運動能力向上の週間を設けることにより、寒い時期にも多くの児童が外へ出て身体を動かすようになってきており、健康・体力の保持増進を図る生活態度が身についてきている。一方で学校・家庭生活共にほとんど外に出ず、積極的に運動に取り組もうとしない児童も依然としており、高学年になるにつれて、運動能力の差が激しくなっている。
- ⑦ 定期的に行う手洗い・うがいがんばり週間などを実施することにより、健康・衛生面の意識が向上してきている。
- ⑧ 栄養指導や日々の給食指導で、食への関心が高まり給食のおかずを残さず食べるようになってきた。朝食抜きの児童に対して指導するとともに、家庭への啓発を積極的に行う必要がある。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- よりよい学校生活をおくるために、基本的な生活習慣の確立を図り、平成 32 年度末の児童アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目と「すすんであいさつしている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合をともに 90%以上にする。

（施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）

- 平成 32 年度末の児童アンケートにおける「思いやりの気持ちを持ち、友だちを大切にしている」の項目と「学校では命の大切さを学んでいる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合をともに 90%以上にする。

（施策 2 道徳心・社会性の育成）

- 平成 32 年度末の保護者アンケートにおける、「学校は、教育方針や教育活動について情報発信につとめている」の項目と、「学校は家庭・地域と連携した取り組みを行っている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える保護者の割合をともに 85%以上にする。

（施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援）

【心豊かに力強く生き抜く未来を切り開くための学力・体力の向上】

- 基礎的・基本的な学習内容の定着を図ることで、平成 32 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を平成 28 年度より向上させる。

(施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

- 主体的で対話的な深い学びのある授業実践を行い、平成 32 年度の小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して「している（どちらかといえばしている）」と答える児童の割合を平成 28 年度より増加させる。

(施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

- 体験的学習や外部人材の積極的活用・ICT 機器や図書館の有効活用により授業改善を行い、平成 32 年度末の児童アンケートにおける「学校の授業はわかりやすい」「学校での読書を楽しみにしている」の項目について、肯定的回答の割合を 85%以上にする。

(施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

(施策 6 国際社会において生き抜く力の育成)

- 平成 32 年度末の児童アンケートにおける「毎日宿題をしている」の項目についての肯定的回答を 90%以上に、「家で復習やほかの勉強している」の項目について、肯定的回答の割合を 70%以上にする。

(施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)

- 平成 33 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における 20 m シャトルラン・反復横跳びの平均の記録を平成 28 年度よりも向上させる。

(施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成)

- 平成 32 年度末の児童アンケートにおける「すききらいせずに食べている」の項目について、肯定的回答の割合を 85%以上に、「朝ごはんを毎日食べている」の項目について、肯定的回答を 90%以上にする。

(施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成)

- 平成 32 年度末の児童アンケートにおける「遊び方や場所を工夫して安全で元気に遊んでいる」「手洗いやうがいをしっかりするなど、健康に気を付けている」の項目について、肯定的回答の割合を 85%以上にする。

(施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成)

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- 平成 29 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。
- 平成 29 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまりを・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を 85%以上にする。
- 平成 29 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- 平成 29 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

学校の年度目標

- よりよい学校生活をおくるために、基本的な生活習慣の確立を図り、平成 29 年度末の児童アンケートにおける「すすんであいさつしている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を前年度以上にする。
- 道徳や人権教育の取り組みを積極的に推進し、平成 29 年度末の児童アンケートにおける「思いやりの気持ちを持ち、友だちを大切にしている」の項目と「学校では命の大切さを学んでいる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合をともに 85%以上にする。
- 地域清掃活動や防災訓練など、保護者や地域と連携した取り組みや地域の保育所・こども園、中学校や高等学校との連携、学校HPの活用などにより、平成 29 年度末の保護者アンケートにおける、「学校は、教育方針や教育活動について情報発信につとめている」の項目と、「学校は家庭・地域と連携した取り組みを行っている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える保護者の割合をともに 80%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜く未来を切り開くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 平成 29 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、前年度より向上させる。
- 平成 29 年度の小学校学力経年調査における正答率 5 割以下の児童を同一母集団で比較し、いずれの学年も 3 ポイント減少させる。
- 平成 29 年度の小学校学力経年調査における正答率 7 割以上の児童を同一母集団で比較し、いずれの学年も 3 ポイント増加させる。
- 平成 29 年度の小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。
- 平成 29 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である 20m シャトルラン・反復横跳びの平均の記録を前年度より 3 ポイント向上させる。

学校の年度目標

- 体験的学習や外部人材の積極的活用・I C T機器や図書館の有効活用により授業改善を行い、平成 29 年度末の児童アンケートにおける「学校の授業はわかりやすい」「学校での読書を楽しみにしている」の項目について、肯定的回答の割合を 80%以上にする。
- 基礎的・基本的な学習内容を確実に定着させるため、日々継続した指導を行うとともに、家庭学習の習慣化を図り、平成 29 年度末の児童アンケートにおける「毎日宿題をしている」の項目についての肯定的回答を 85%以上に、「家で復習やほかの勉強している」の項目について、肯定的回答の割合を 65%以上にする。
- 食育の充実を図り、平成 29 年度末の児童アンケートにおける「すききらいせずに食べている」「朝ごはんを毎日食べている」の項目について、肯定的回答をともに 85%以上にする。
- 健康・体力の保持増進を図る生活態度を育成し、健康で安全な生活習慣を身につけさせる。平成 29 年度末の児童アンケートにおける「遊び方や場所を工夫して安全で元気に遊んでいる」「手洗いやうがいをしっかりするなど、健康に気をつけている」の項目について、肯定的回答を 80%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪府立 平林小学校 平成 29 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成 29 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。 ○ 平成 29 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまりを・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を 85%以上にする。 ○ 平成 29 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。 ○ 平成 29 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ よりよい学校生活をおくるために、基本的な生活習慣の確立を図り、平成 29 年度末の児童アンケートにおける「すすんであいさつしている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合を前年度以上にする。 ○ 道徳や人権教育の取り組みを積極的に推進し、平成 29 年度末の児童アンケートにおける「思いやりの気持ちを持ち、友だちを大切にしている」の項目と「学校では命の大切さを学んでいる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える児童の割合をともに 85%以上にする。 ○ 地域清掃活動や防災訓練など、保護者や地域と連携した取り組みや地域の保育所・こども園、中学校や高等学校との連携、学校HPの活用などにより、平成 29 年度末の保護者アンケートにおける、「学校は、教育方針や教育活動について情報発信につとめている」の項目と、「学校は家庭・地域と連携した取り組みを行っている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える保護者の割合をともに 80%以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的な生活習慣の確立に関しては、すすんであいさつをすることができるように学校だよりや学年だより、生活だより等で保護者への啓発を図る。 ○ 児童会のあいさつ週間においては、「あいさつカード」を配布する。事前にあいさつについての指導を学級で行い、毎日自分はいいさつをできたかどうかの振り返りをさせることで、意識を向上させる。また、あいさつ運動すすめ隊を朝の校門だけではなく校舎内にも配置し、児童がお互いにあいさつしあえるような環境を 	

<p>つくる。</p>	
<p>指標</p> <p>○児童会が企画した「あいさつ活動」を年2回以上実施する。</p> <p>○生活だよりを年11回以上発行し、基本的な生活習慣について保護者への啓発を図る。</p>	
<p>取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>○思いやりの気持ちを育むために、学校行事の様々な場面においてたてわり班活動を充実させる。</p> <p>○全校朝会で道徳心や社会性を高めるための講話を行う。また、人権・平和についての学習を全校で行い、命の大切さや人権について考える機会を多くとる。</p>	
<p>指標</p> <p>○秋に全校遠足を行うほか、異学年交流を中心に年間20回以上たてわり班活動を実践する。</p>	
<p>取組内容③【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <p>○土曜授業を活用し、防災訓練や清掃活動などを地域、保護者、関係諸機関と連携を取って進めていく。</p> <p>○幼稚園、保育園、こども園の子どもに学校の校庭を開放する。その中で小学校のことを知ってもらったり、児童との関わりの機会を持ってもらったりする。</p> <p>○学校だより、学年だより、生活だより等を発行し、学校の教育方針を保護者に対して事前に明示しておく。また、普段の学習の様子や行事の様子を学校ホームページに掲載し、教育活動を発信していく。</p>	
<p>指標</p> <p>○地域と合同で保護者にも参加してもらえる行事を土曜授業に取り組む。</p> <p>○学校の教育方針を示した各お便りを毎月発行する。</p> <p>○週1回以上学校ホームページを更新し、年間アクセス数6000以上を目指す。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	

大阪市長 (学校園名) 平成 29 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜く未来を切り開くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成 29 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、前年度より向上させる。 ○ 平成 29 年度の小学校学力経年調査における正答率 5 割以下の児童を同一母集団で比較し、いずれの学年も 3 ポイント減少させる。 ○ 平成 29 年度の小学校学力経年調査における正答率 7 割以上の児童を同一母集団で比較し、いずれの学年も 3 ポイント増加させる。 ○ 平成 29 年度の小学校学力経年調査(校内調査)における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。 ○ 平成 29 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である 20 m シャトルラン・反復横跳びの平均の記録を前年度より 3 ポイント向上させる。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 体験的学習や外部人材の積極的活用・ICT 機器や図書館の有効活用により授業改善を行い、平成 29 年度末の児童アンケートにおける「学校の授業はわかりやすい」「学校での読書を楽しみにしている」の項目について、肯定的回答の割合を 80% 以上にする。 ○ 基礎的・基本的な学習内容を確実に定着させるため、日々継続した指導を行うとともに、家庭学習の習慣化を図り、平成 29 年度末の児童アンケートにおける「毎日宿題をしている」の項目についての肯定的回答を 85% 以上に、「家で復習やほかの勉強している」の項目について、肯定的回答の割合を 65% 以上にする。 ○ 食育の充実を図り、平成 29 年度末の児童アンケートにおける「すききらいせずに食べている」「朝ごはんを毎日食べている」の項目について、肯定的回答をともに 85% 以上にする。 ○ 健康・体力の保持増進を図る生活態度を育成し、健康で安全な生活習慣を身につけさせる。平成 29 年度末の児童アンケートにおける「遊び方や場所を工夫して安全で元気に遊んでいる」「手洗いやうがいをしっかりするなど、健康に気をつけている」の項目について、肯定的回答を 80% 以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るために指導法の工夫に取り組む。 ○ 学ぶ楽しさを感じることができる授業づくりを行う。 	

指標 ○研究授業を実施計画通り、年 8 回以上行い、「わかる授業」の実践に努める。	
取組内容②【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 ○チームティーチングや少人数クラス、習熟度別クラスで授業を行い個に応じたきめの細かい指導を行う。	
指標 ・レディネステストを行い、学期に 1 回は習熟度別クラスで授業を行う。	
取組内容③【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 【施策 6 国際社会において生き抜く力の育成】 ○体験的学習や外部人材の積極的活用・ICT 機器や図書館の有効活用により授業改善を行う。	
指標 ○外部人材を活用した授業を、学年で年間 1 回以上行う。 ○学期に 2 回は ICT 機器を活用した授業を行う。	
取組内容④【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 ○学校便りや学校ホームページを積極的に活用し、家庭学習の大切さについて啓発していく。	
指標 ○学校ホームページに、学期に 2 回は家庭学習の大切さについての記事を載せる。	
取組内容⑤【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】 ○食育を推進し、食に関する指導の充実に取り組む。そのために給食週間を設け、食への興味・関心を高められるように指導する。	
指標 ○栄養教諭による食育指導を各学年で年間 2 回行う。 ○「食育だより」を月 1 回配布し、食に関する指導を行う。 ○給食週間を年間 1 回以上行う。	
取組内容⑥【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】 ○健康で安全な生活習慣を身につけさせる。そのために手洗い・うがいがんばり週間、チェックカード、保健指導を通して、健康や衛生面の意識向上や正しい知識や望ましい態度を学ばせる。 ○「保健だより」等を発行し、保護者・地域への啓発を行う。	
指標 ○手洗い・うがいがんばり週間を年 3 回、「保健だより」等を年 11 回以上発行し、すべての教育活動を通じて健康で安全な生活習慣を身につけさせる指導を行う。	
取組内容⑦【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】 ○運動能力の向上を図り、運動の楽しさを実感させる教育活動を充実させる。そのために、なわとび週間や外遊びの日を設けて、全校児童の運動能力の向上を図る。	
指標 ○なわとび週間を年 1 回以上行う。 ○外遊びの日を学級で設けて、1 週間に 1 度は外遊びを行う。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	

次年度への改善点